

## 会議結果のお知らせ

### 開催した会議の名称

別府市新図書館等整備基本計画策定委員会 第6回会議

### 開催日時

令和2年3月25日（水）14：00～14：40

### 開催場所

別府市役所5階 大会議室

### 出席者

委員 塚田俊三、井上正文、平石栄二、高橋伸子、中野伸哉、幸準一郎、阿南寿和、稲尾隆  
事務局 社会教育課長外3名、受託事業者OpenA4名

### 配布資料

- ・次第 ①
- ・基本計画案及び概要版

### 審議内容及び会議録の概要

#### 1 開会

#### 2 審議

(委員長)

本日は基本計画案の最終審議となる。事務局より本日の議題の説明をしてください。

(事務局)

机上には事前にお送りした基本計画案に、委員の意見を基に修正したものを用意した。この中からポイントを説明するので、審議ののち、御承認いただきたい。会議終了後に、この会場で市長と教育長に協議結果の報告をする。

(委員長)

それでは事務局から基本計画案を説明してください。

(事務局)

基本計画案修正点の説明(略)

(委員長)

ただいまの事務局からの説明に対し、御質問があれば。

(委員)

2点質問したい。

1つ目は、第4章に書かれている市役所との連携という表記の中に、別組織であるビーコンプラザや京都大学の研究施設が入っているが、この計画案を立てるにあたって、それらの団体との下打ち合わせはなされているのか。

(事務局)

御指摘のブルーの点線は、別府のシンボリックな景観を共につくる拠点である。駐車場の連携利用も含めて、図書館を軸として、いろんな文化施設と連携してブランディングしていく、それぞれの役割を担っていくということについて、協議が済んでいるところと未着手のところがある。

(委員)

次は概要版の第6章のスケジュール表だが、基本設計と実施設計の前に入札という表記がないが、すでに業者が決まっているということか。

(事務局)

まだ決まっているわけではない。令和2年度の当初予算に設計委託料を計上して、一昨日議決いただいた。4月1日以降に業者選定に向けた作業に着手する。

(委員)

入札になるのか、コンペになるのかプロポーザルになるのか知らないが、そういう手続きが基本設計の前に入るという認識でよいか。

(事務局)

お見込みのとおり。この図からは、令和2年度にすぐ基本設計に入るように見えるが、業者選定という表記が入るのが適切である。

(委員)

今回のコロナウイルスのような突発的世界規模の事象が起きた際に、基本計画はどのくら

い変更できるか。そのあたりの余白というのを考えていただきたいと思うが、いかがか。

(事務局)

スケジュールに関してか、あるいは中身か？

(委員)

中身についてである。地震に対しての知恵はすでに持っているが、こういった事態についての議論がなかった。

(事務局)

新型コロナウイルス感染症はだれもが経験していない事態であり、余白というのとは異なるかもしれないが、スケジュールも含めて検討を余儀無くされる事態である。中身については、概要版の理念にまさに「変化に対応する」ということが書かれているが、新図書館は、スペース的にも機能的にも緩やかに変化に対応するという趣旨でこの言葉が入っている。

(事務局)

今回の新型コロナウイルスは現在進行形で先が見えず、その状況に私たちがどう対応するかという大きな指針すら現段階では見えていない、検証もされていない状況である。一方で東日本大震災からおおよそ10年経過し、日本にはすでにノウハウがあるので、例えば建物を一時的な避難所にするなどの対応が求められ、計画書にも記載しているし、今後、基本設計・実施設計にも反映されていくものだと思う。今回の事態については、今後コロナウイルスに対しての対応が進むと思うが、そこでの試行錯誤がノウハウとして基本設計などに吸収されていくと考えている。現段階で解明されていないことに対して記述論述はしないが、変化に対応するという言葉に内包されていると御理解いただきたい。

(委員)

別府は医療・福祉関連事業が強い地域でもあるので、この建物ができた頃に当然そういうことも発信しなければいけないと思う。今後考えの中に入れていただければよい。

(委員)

先の委員の発言にも関連するが、今回のコロナショックで図書館のあり方もだいぶ変わる。これまで人が集うことを前提について話し合ってきたが、今は集ってはいけないと言われている。これを機に一気にデジタル化が進む可能性もある。別府の図書館も人が集まるといことがベースではあるが、一番重要な運営組織を既存の価値観で選んでしまうと、後々大変なことになるので、注意深く選定いただきたい。

(委員)

建設予定地には、松がたくさんある。台風の時に倒木などが予想されるし、建設デザインに支障がある場合には、必要に応じて伐採してもよいと思う。位置的にはどこに重心がくるか今の段階ではわからないか？

(事務局)

来年度的设计者のアイデア・デザインによる。どこに持ってくるのが新図書館の魅力を効果的に発揮するのかのアイデアを御提案いただき選定するので、建物の姿は今のところ未定である。また、樹木について、残すか切るかのオールオアナッシングではなく、可能であれば移植という方向も視野に入れていきたい。

(委員)

空間を確保するために切る必要もあるので、必ず議事録に記録していただきたい。もう一つ、司書の仕事はAIによって簡素化されてくる。人が従事する部分と機械が担える部分を分けて効率化するとよい。これは先ほどから繰り返されている、社会の変化に柔軟に対応するということにも繋がるので、可能であれば、積極的にAI化するべきだと思う。

(事務局)

AI化について具体的な記載はしていないが、現在技術の進歩も著しいため、来年度以降に精査していく予定である。

(委員)

デジタル化が進んでいくことによる利益もあるし、進んでいくが故にいろんな情報が入り、人と人が繋がることも可能になるが、やはり人は人によって成長し人と繋がること、人と人が生きることによって、その人の拠り所、生きる価値が見出されてくると思う。新しい図書館は、そういったことをうまく使いながら豊かな場所になるといいと思う。

(委員)

長い間議論していただいて、本当にいい計画ができたと思う。シンボルという話もあったが、図書館が完成すれば景観的にも素晴らしくなると思う。陳腐化しないようにしなければならない。今回のコロナウイルス対応を経て、図書館が果たすべき役割についての認識も変わったかもしれない。令和5年にしっかり形になっていることを期待して、前に進んでいければと思う。

(委員)

本日最後の会議でもこれだけ意見が出るというのは、本当にこの委員会は多種多様な方が

それぞれの立場から前向きな意見を言ってくださっていると感じた。今回の基本計画を羅針盤にした基本設計、とりわけチャレンジと思っている事業スキームなど、社会の変化を加味しながら、計画を進めていかなければならない。

(委員長)

何もかも図書館に組み込むわけではなく、先程の地震の件やウイルスの件、市にはそれぞれ担当部署があり、県も同様である。そのあとに現場に落ちてくるので、新図書館の計画などにいれる必要はあまりないように感じている。何もかも入れるのではなく、要点を絞っていくのが運営者を選定するうえでも大事だと思う。

次は日程について、スケジュールが非常にタイトだということを把握していただければと思う。

デジタル化は確実に進むので、蔵書 30 万冊と書くことは危険であり、たくさんあれば良いということではないため、この 30 万冊のなかにはデジタル書籍などが含まれるという理解が良いのではないかと思います。全般としてはオープン・プラットフォーム会議を何度も開催し、市民からもいろんな声を聞け、オープンに進められたというのは嬉しく思う。非常にユニークな委員会だったと思う。

それでは、他に御意見が無ければ、みなさまにお諮りします。別府市新図書館等整備基本計画については事務局提案内容を承認するというところでよろしいか。

一同：はい。

### 3 その他

特になし